

令和2年度 京都府立北嵯峨高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (実施段階)

学 校 経 営 方 針	昨年度の成果と課題	本 年 度 学 校 経 営 の 重 点
「独創質実（何事も自ら考え、主体的に判断し、真摯な態度と素直なところで行動する。）」の校是の下、高校生活の限られた時間の中、集中力と工夫により学習と部活動の両立を実践し、「人を育て、心を育む」教育を目指す。 具体的には、 1 規律ある生活により、学力・体力・情操の向上を図る。 2 科学的認識を養い、創造性と実践力を育てる。 3 保護者・地域との連携を深め、生徒の進路についての願いを実現することに努める。 4 地域の歴史と文化遺産に対する理解を深め、その文化を守り育てる力を養う。	【成果】 (1) 部活動における生徒の活躍は、北嵯峨高校の重要な教育活動の一つとして地域から大きな期待を集めている。 (2) 継続した指導により落ち着いた学習環境が保たれ、また基本的生活習慣を身に付けた生徒が多く見られる。 (3) 学校行事等に積極的に参加する生徒が多く、生徒一人ひとりの活躍の場が提供されている (4) 地域の伝統行事や様々な活動を通して地域との繋がりが構築され、学校への信頼が醸成された。 (5) ホームページの積極的な更新、Classi、お知らせメールの活用により保護者、生徒への情報発信が効果的に行えた。 【課題】 (1) 部活動のさらなる充実と発展 (2) 危機意識の共有と迅速な対応 (3) I C T機器の効果的な活用と家庭学習の定着 (4) 交通安全意識の向上と定着 (5) 嵯峨・嵐山の自然、歴史、伝統文化・行事等の教育資源の積極的活用	(1) 未曾有の事態を想定し、マニュアルや指示に従うだけでなく、自ら考えて行動できるように様々な教育活動を通して危機意識の醸成に繋げる。 (2) 本校の強みである部活動を通して地域との繋がりを密にし、学校行事や地域行事等への積極的な参加を通して自己有用感を高める。また、部活動で培われる規範意識を学校全体に広げていく。 (3) 学習支援システム「Classi」の適切な運用を図り、家庭学習の充実、データの蓄積や分析など授業・学習支援システムと校務システムの繋がりを構築して生徒の学習面を支援する。 (4) 教科横断型の探究活動を行う中で、日本の伝統文化や文化遺産など嵯峨の歴史や自然の魅力を世界に発信して地域の行事等に参画する。 (5) 人権尊重の涵養に努め、節度と自覚ある行動が取れる人間づくりをめざし、いじめの根絶、合理的配慮の視点を持った他者を尊重する適切な対人関係の構築に取り組む。

評価領域	重 点 目 標	具 体 的 方 策	No	評 価		成果と課題
学習指導	◇教科指導力を向上させる。	◆学習効果を高め、基礎基本を徹底し学力を充実させながら、I C T機器の活用を含めた深い学びにつながる授業となるよう工夫・改善に努める。	1	B	B	○コロナ禍の中、遠隔授業に取り組み、試行錯誤を繰り返しながら一定の学習効果をあげることができた。 ○特別支援を要する生徒への配慮や教職員間の共通理解などにより、生徒個々の特性を把握した丁寧な指導が生徒・保護者との信頼関係を構築した。
	◇特別支援教育を充実させる。	◆教職員で情報を共有し、合理的配慮の提供に努め、個々の状況に応じたきめ細やかな指導を行う。	2	B		
生徒指導 特別活動	◇愛校心を育成し基本的な生活習慣を身につけさせる。	◆身だしなみ指導を通じて、本校生徒としての自覚と誇りを養うとともに、基本的生活習慣の定着を図るために教職員の共通理解と一致した指導体制を構築する。	3	A	A	○時間管理、身だしなみ、スマート・フォンの使用など生活指導全般にわたる指導では、多くの生徒が理解し主体的に行動できたことは、継続した指導の成果である。 ○交通安全指導に関して、今後もルールやマナーを守る指導とともに人としてのモラルについても指導していく必要がある。 ○生徒会・部活動生徒のボランティア活動は概ねできているが、より多くの生徒が参加する取り組みが必要である。
	◇交通規則の遵守と交通安全に対する意識を高める。	◆関係各団体と協力し、交通規則の順守と、自転車の交通マナー及び交通安全に対する生徒の意識を向上させる。	4	B		
	◇生徒の主体性・社会性を育成する。	◆生徒会や部活動が中心となり、地域への奉仕活動に主体的に参加できるよう、社会性やボランティア精神を育成する。	5	A		
進路指導	◇希望進路の実現に向けて進路指導を行うとともに、キャリア意識の形成を図る。	◆学年部・教科担当者・部活動顧問が個々の生徒の学力状況・学習状況を把握し、3つの方向からの指導により、学力の向上と進路希望の実現を図る。	6	B	B	○生徒個々の進路目標を早期に確立し、進路実現に向けた学力の定着と伸長を図るため、様々なデータ等を共有し更なる授業の改善と工夫に取り組む必要がある。 ○民間企業への就職内定率 100 %、公務員試験合格者複数名、国公立大学をはじめとした四年制大学への合格者の増加など、生徒への粘り強い指導が実を結んだ。
		◆キャリア教育を充実し、生徒個々の進路意識の向上を図るとともに、就職率100%、大学進学率70%を目標に生徒個々の適性と希望に応じた進路指導を推進する。	7	B		
人権教育	◇人権問題を正しく理解させ、いじめの根絶を図る。	◆あらゆる教育活動に人権の視点を入れ、同和問題をはじめとする様々な人権問題の解決や、いじめ等の未然防止のための意識を高め態度を育成する。	8	A	A	○単発的な指導に終わらず、今後も教職員が日頃から高い人権意識を持ち、生徒の様子・変化に留意しながら早期に対応していく事が重要である。
健康・安全 教育	◇配慮を要する生徒に対して適切な支援を行う。	◆保健部と担任や教科担当と情報の共有を図り生徒の状況を適切に把握し、教育相談会議等を活用して、配慮を要する生徒への支援を適切に行う。	9	A	B	○要配慮生徒への支援や教育相談会議を通じた教職員の共通理解は一定図られた。 ○新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた様々な取組がなされる中、新しい生活様式に向けた「行動の変容」を促す更なる取組が求められており、教職員への研修機会を増やす必要がある。
	◇教育環境づくりを推進するとともに、環境保護の意識を高める。	◆日々の清掃活動を徹底し学校の環境を整備するだけでなく、環境保護の意識向上に向けて生徒も教職員もゴミの分別を徹底する。	10	B		
図書館指導	◇図書館を活用した指導を充実させ、時代の要求に対応した図書館を目指す。	◆教科との連携を通じて生徒の読解力向上を目指すとともに、視聴覚機器を活用した授業を展開する。	11	B	B	○ビブリオバトルやしおりコンテストを通して図書館への親近感が増すとともに、生徒が主体的に活動する機会となった。
安全管理 情報・文書	◇学校の危機管理体制を強化する。	◆全教職員が学校の危機管理対応について理解を深め、生徒の安心安全に適切な対応ができるようにする。	12	B	B	○新型コロナウイルス感染症の対応については、教職員が連携し、創意工夫を重ねながら迅速に対処する事ができた。 ○生徒へは今後も継続して情報リテラシーの育成を図る必要がある。
	◇学校の情報管理体制の徹底を図る。	◆生徒の多様な個人情報適切に管理し、学校の情報管理体制の充実と教職員のセキュリティ意識の向上を図る。	13	B		
家庭・地域 社会との連 携	◇広報活動を一層充実し、速やかな情報提供を図る。	◆各中学校との連携を深め、HPの積極的な更新等広報活動を一層充実させ、信頼される「行きたい」学校づくりを進める。	14	A	A	○ Classi の活用とHPの頻繁な更新により、学校から保護者・生徒への連絡事項がタイムリーに発信でき、学校と保護者との信頼関係に繋がった。 ○コロナ禍により PTA 活動にも大きな制約を受けた。
	◇地域に信頼される学校づくりを進める。	◆学校評議員、学校関係者評価委員、PTA との連携を深め地域に信頼される学校づくりに努める。	15	A		
学校関係者 評価委員会 による評価	・ 今後益々タブレット端末等の ICT 機器を有効活用することが求められることとなり、生徒の学習理解度を高めるための授業実践に教職員全体が取り組む必要がある。 ・ 北嵯峨高校の特色である部活動や学校行事への積極的な参加とともに、整った身だしなみ、時間管理、挨拶等の規律については、今後も継続して指導してほしい。 ・ コロナ禍の中、十分な授業時間が確保できない状況においても多くの生徒の進路実現がなされたことは、生徒個々に寄り添った地道な教育活動が実を結んだ証左である。					
次年度に向 けた改善の 方向性	・ 生徒が主体的、協働的に学ぶ姿勢を育成するとともに、ICT 機器等を活用した学習活動の充実や遠隔授業をはじめとした「学びの保障」に積極的に取り組む。 ・ 今年度コロナ禍の影響を最も受けた部活動に関しては、可能な限り新型コロナウイルス感染症対策をとりながら、部活動における行動変容を意識した活動に変えていく。 ・ 地域の伝統文化行事やボランティア活動に積極的に参加し、地域の歴史やその良さを学び、それを理解することで地域との絆を深め信頼関係をさらに強固なものとする。					